

1 市民向け説明会の開催について

	日時	場所等	参加者数
(1) 実施日時、場所等及び参加者数	2月 6日(土)	クロスベイ新湊 オンライン会議方式	70名 25名
	午前10時～ 午後2時～		
	2月 7日(日)	救急薬品市民交流プラザ	40名
(2) 発言要旨、アンケート結果等	以下のとおり		

2-1 市民向け説明会における主な発言等

(1) 計画全般

・類似施設が市内に2つも3つもあって無駄である。全部1個でいいのではないか。また、図書館と体育館といった種類の違う施設でも、一つの場所に立地していいのではないか。結果として空いてくる土地で宅地開発をすれば、転入者も増えるかもしれない。

・小杉駅周辺の再開発は、大きな可能性を秘めていると感じ、期待している。小杉駅周辺に文化施設があれば、アクセスも良く、さらに魅力が高まる。図書館も駅周辺にあれば、集客力が高まる。

・20%の削減目標については賛成。30%でもいい。図書館、文化施設、スポーツ施設については、数を減らせば充実ができる。

P135に「縮充と跡地等の利活用」に対する市の考え方を追記。

(2) 個別の施設

・体育館が統廃合された場合であっても、小杉総合体育センターを増築するなど、運動をしたい方々が運動できる環境を整えてほしい。運動したい方が運動できなくなり、医療費や介護の費用が増えてしまうことは本末転倒。

・これからの射水市を支える子供たちの教育の場所である学校については熟議していただきたい。

・図書館の統廃合により図書館が遠くなる方への対応として、デジタル図書館の導入を検討してはどうか。

・文化施設について、県内第3の都市である射水市においては、1,600名規模の文化施設である新湊中央文化会館を残してもらえよう願いたい。

(3) その他

- ・災害が発生した場合、住民が避難できる施設も一定規模確保してほしい。
 - ・地域によっては、今後高齢化率が50%くらいになり、更に3、4割の人口が減る。空き家もどんどん増えていく。市として「施設再編」「まちづくり」「人口増」について、庁内でしっかり連携して取り組んでいただきたい。
 - ・公共施設の再編問題の根底にあるのは人口減少である。子どもたちを育てやすい環境づくりが大切であり、射水市として人口を増やす取組を充実してほしい。
 - ・40年間で年少人口が43%も減少することに衝撃を受けた。子育て支援について、他自治体だけではなく国外の取組事例なども研究して取り組んでほしい。
- P137 に庁内で緊密な連携を図っていく旨を追記。**

2-2 市民向け説明会におけるアンケート（計画素案に対するご意見）の概要

市民向け説明会で実施したアンケート（参加者135名中、62名が回答）において、記入いただいた計画素案に対するご意見を、年代別に取りまとめました。

〔回答者の属性〕

（単位：人）

居住地 年齢	新湊地区	小杉地区	大門地区	大島地区	下地区	市外	計	構成比
29歳以下	3	2					5	8.1%
30代	4	1					5	8.1%
40代		2	2			2	6	9.7%
50代	5	5	1	2		1	14	22.6%
60代	8	3	2	2	1		16	25.8%
70歳以上	12	2	1		1		16	25.8%
計	32	15	6	4	2	3	62	
構成比	51.6%	24.2%	9.7%	6.5%	3.2%	4.8%		

(1) 29歳以下

- ・図書館とカフェの複合化、小杉駅にお土産施設を。
- ・人が少ない小・中学校は、統合してスクールバスなどを走らせるのが良い。

(2) 30代

・地図に旧市町村の色分けは不要。全て一つの射水市で考えればよい。

P5 など、地図における旧市町村の色分けを削除。

・体育館、図書館、文化施設等は、市に一つで良い。射水市はコンパクトな市である上に、車社会なので一つに絞る。空いたスペースに宅地開発、企業誘致をしたらよい。

・体育館は利用率が高く利用時間も集中するのでしっかり考えてほしい。スポーツは医療費の削減につながる。

・再編はやむを得ないが、利用者の立場に立った改築、削減を行ってほしい。特に、声が届きにくい子供や若者にも配慮していただきたい。

(3) 40代

・機能を集約して複合施設とし、新設又はリノベーション。これを今後の中心とすべき（文化・スポーツの施設利用者は部分的。受益者負担の面からも）。

・令和3年度から令和5年度までの集中検討がとても重要だと思った。一部の声の大きい人の意見だけでなく、各世代や色々な分野の方の意見を丁寧にくみ取ってほしい（20代～40代の声もしっかり反映してほしい）。

・「縮充」には賛成であるが、子どもが多い地域や人口が増えている地域に縮充してコンパクトなまちづくりをしてほしい。

・「文化施設等再編基本構想」の策定には市民も含めて進めていただきたい。令和5年度までの基本構想でしっかり検討し、市民の文化権の保障及び市民が心豊かに生きることができるよう、文化施設の在り方と「縮充」を考えていただきたい。

・「厳しい財政状況」が当計画の背景の一つであるとのことであるが、本当に大事に予算を使っているのか疑問である。例えば、子どもが学校からもらってくる紙がとても立派な上質紙。小さなことであるが、各部局の一つ一つの事業の予算執行が本当に適当なのかチェックし、削減してから考えてほしい。

(4) 50代

- ・ 将来のためにも着実に進めていくべき。
- ・ コンパクトな市であり、同種の施設は統合すべき。
- ・ 跡地活用も重要であり、まちづくりと一体となって検討していく必要がある。
- ・ 新型コロナなど今後の社会情勢の変化に応じて計画の見直しも検討してもらいたい。
- ・ 小学校の統廃合の検討については、地域の意見も十分に聞き、納得のいく話し合いを重ねていただきたい。
- ・ このような説明会の機会を増やしていただき、市民と行政の距離を縮めて、協働のまちづくりを進めてほしい。
- ・ 市民の意見も受け入れ、お互いにより良い未来を開いていくようにこれからも話し合いの場を設けていただきたい。
- ・ 行政が地域の活性化、住み心地のよい「縮充」を市民のために考えるなら、行政が部局を超えて一体となり、様々な課題の解決策を探っていただきたい。

(5) 60代

- ・ 検討期間が長すぎる。検討のスピードを早める必要がある。
- ・ 機能の集約化には賛成だが、駐車場の整備をお願いしたい。
- ・ 地域特性（学園都市）を生かした方向性も必要。
- ・ 公共施設を交通の利便性の良い小杉駅周辺で検討してほしい。
- ・ 文化施設は、機能を集約して将来1館で良いのでは。また、既存の施設は民間に売却できるか検討すべき。
- ・ 体育館については、競技レベル向上を含めた観点からも考えてほしい。
- ・ 体育館は将来的に機能集約し、1館で良いのでは。既存施設は民間に売却し、固定資産税の減免などを行い、以前からの利用者が継続して利用できるよう交渉するのも可能であれば良いのでは。
- ・ 情報を公開し、市民の理解を得ることに尽力していただきたい。
- ・ 射水市を空の上から見て各エリアを将来的にどんなエリアに改造していくのか市民に理解と協力を求める努力が必要。スピードをもって若者の発想で先を走る。廃止の前に民営経営できるものは民間へ払い下げ。
- ・ 少しでも多くの住民に伝わるように努力されたい。
- ・ 施設統廃合に伴う交通弱者対策は。
- ・ 少子高齢化対策など人口減少の歯止め政策が何より重要である（その政策が見えない）。
- ・ 再編の必要性は分かったが、人口を増やす施策にも力を入れてほしい（空き地・空き家の利用促進策、宅地再開発）。

(6) 70歳以上

- ・施設を廃止した土地を更地にして、民間活用を検討してほしい。
- ・公共施設の削減は早期に進めるべき。
- ・削減目標を30%又は25%以上にすべき。
- ・効率だけでなく地域のバランスも考慮してほしい。
- ・施設規模が公平性に欠けるものがある。適正規模の視点が不可欠。
- ・年度別の財政計画と整合性についての考え方を望む。
- ・廃止する場合、小学校の体育館で代替できるように考えてほしい。
- ・スポーツクラブは統合しないでほしい。
- ・放生津小学校は新湊小学校に統合して1つの小学校とする。校名は公募する。放生津小学校の跡地は住宅地とする。
- ・コミセンの統廃合の計画化、文化施設と図書館を統合し市で1、2か所。地区センターは廃止。統廃合により充実を図られる。
- ・市民の理解が大変重要であるので、十分なコミュニケーションが必要。
- ・説明会の開催について市民にPRしてほしい。
- ・計画を進めるに当たっては、総合的な取組が必要。横断的な連携で全庁的な取組に期待。
- ・まちづくりの根幹として、空き家が多くなる問題に対し、市が先頭に立って取り組まなければ、まちが疲弊していく一方である。

(7) アンケートの傾向と計画への反映

- ・ ほぼ全ての年代において、行政との情報共有や市民理解の重要性、市民参加を求める意見が多い。
 - ・ **P136 に、地域住民のご意見を伺いながら、ともに考えていくことの重要性について追記。**
- ・ 再編等を着実に進め跡地等を有効に活用してほしいという意見が多い。
 - ・ **P136 に、跡地等の利活用に係る考え方を追記。**
- ・ 施設廃止後の避難場所の確保、交通弱者への配慮を含め、計画の推進には全庁的な連携が重要であるという意見が多い。
 - ・ **P137 に、庁内で緊密な連携を図っていく旨を追記。**
- ・ 問題の根底にある人口減少への対策を望む声が多い。